



## 周辺環境との連続性をテーマに設計された緑豊かなキャンパス。

東京あだちキャンパスは、文教大学の建学の精神「人間愛」と創立以来育んできた「校風」を大切に、育まれた「文教ブランド」を伸ばし、多くの人に愛される開かれたキャンパスを目指して、周辺環境との連続性をテーマに設計されました。

大学と街が相乗効果を生み出し、大学から街へ広がる学びの風景「ラーニングランドスケープ」の描く「地域、社会との“和”」「人と人との対“話”」「人と環境にやさしい循環“環”」の3つの“わ”がデザインされています。地域に開かれた大学を介しネットワーク化される街として、新たな魅力、価値を創造することが期待されています。

また、豊富な緑と調和のとれた建物、シンボルの文教富士、街のランドマークとなる時計塔。地域の新しい景観をつくり出しています。



### 文教大学東京あだちキャンパス建築計画

事業主：文教大学  
所在地：東京都足立区

TOYO ワンユニオンシステム（不陸抑制機能）

建築・環境に調和する4種の舗装デザイン。校舎周辺とメインアプローチは、ファンダペイブ。外観に合わせたテラコッタ調の色調とアイボリー系のボーダーデザイン。中心となるケヤキコートには混色が特徴のグランデペイブのランダムパターン。芝生の庭を抜ける通路はシェードペイブEXが使用されています。それぞれTOYO ワンユニオンシステムの製品となっており、平坦性を維持し足元の安全を支えています。またTOYO アーバンファニチャーシリーズのベンチも憩いの場としてキャンパスに彩を添えています。